

78 今なお街中に残る石造物

歴史的資産



受賞者：松原庚申地蔵講 代表
 飯田 久雄 さん
 推薦者：山田 拓史 さん
 山田 壮太郎 さん

【推薦コメント】

東京都下でも高度成長に伴う道路拡張等により、撤去されたり博物館などへ移転されることの多かった石造物（お地蔵さま等）。しかし、狛江では今なお街中で普通に見かけることができる。区部になるとなかなかそうはいかない。自動車を降り、ゆっくりと歩いたり、自転車で市内を散策すれば、日常の風景に溶け込んだお地蔵様や、月待塔、庚申塚に出会えるだろう。多くは江戸時代の文化文政時代以降につくられたものであるそうだが、石造物のある道はその時代から続く狛江の古い道であることも多い。江戸の昔、人々はどのような願掛けをしたのだろう。時代は変われども、人々は祈る。いにしえの時代にそこに集った人々に想いを馳せる縁としたい。

【講評】

狛江市ではまちのいたる所で庚申塚やお地蔵様を目にすることができます。庚申塚は中国より伝来した道教に由来する庚申信仰に基づいて建てられた石塔のことで、米や野菜、お金を持ち寄り、皆で飲食・歓談して過ごす楽しい場所で、さまざまな情報を交換し、農作業の知識や技術を研究する場でもあったそうです。また、街中に点在するお地蔵様も、それぞれに言い伝えがあり、今なおお参りする市民の方は多いそうです。そういった歴史的な遺構である石造物が、今後も街中にあり続けることを願い、狛江の魅力として選定しました。